

## 農林水産省と環境省の連携による 「田んぼの生きもの調査2006」の結果について

この度、農林水産省と環境省の連携による「田んぼの生きもの調査2006」の結果が取りまとめられましたので、主な結果についてご報告します。

「田んぼの生きもの調査」は、農林水産省の呼びかけで全国の都道府県や農林水産省の出先機関等が地域住民の皆さんなどと共同で実施している調査で、専門機関に依頼して分析・とりまとめを行っています。

平成13年度から18年度までの延べ調査地点数は、12,000地点を越えています。

### 調 査 概 要

#### 1. 調査目的

「田んぼ」やその周辺水域は、魚やカエルなど「生きもの」の重要な生息場となっています。しかし、これまでにこれら「田んぼの生きもの」に関する全国的な調査はほとんど行われていませんでした。

そこで、農林水産省では、代表的な田んぼの生きものである「魚」と「カエル」について、その生息状況を把握するために全国で調査を行いました。

#### 2. 調査内容

調査対象生物：魚・カエル

調査手法：タモ網、定置網、カゴ網など

なお、詳細な調査手法については、農村環境整備センターのホームページ (<http://www.acres.or.jp>) にある「調査マニュアル」を参照

調査場所：

- ・魚調査：田んぼの魚類相が把握できる農業用の水路などで実施
- ・カエル調査：田んぼのカエル相が把握できる畦や小水路などで実施

調査地区及び地点数：

- ・魚調査：306地区 1,761地点
- ・カエル調査：300地区 367地点

#### 3. 調査団体：534団体

調査には、都道府県や農林水産省の出先機関をはじめ、全国で534団体が参加しました。このうち114団体が小学校やこどもエコクラブ、地域住民など一般の団体で、調査主体である都道府県や農林水産省の出先機関などと共同で調査を行いました。毎年多くの地域の方々との連携の下に調査が行われています。(図1)

#### 4. 調査期間：平成18年6月上旬～10月下旬

## 主 な 調 査 結 果

### トピック 1

－日本に生息する魚やカエルの3割以上の種を確認－

○今年度は、魚が94種（日本に生息する淡水魚約300種の31.3%）、カエルが16種（日本に生息するカエル約40種の約38.1%）が採捕されました。（表1）

○全国で採捕地点数が多かった魚の上位5種は、ドジョウ、タモロコ、メダカ、モツゴ、カワムツでした。（図2）

○カエルの上位5種はニホンアマガエル、トノサマガエル、ヌマガエル、ツチガエル、トウキョウダルマガエルでした。（図3）

### トピック 2

－田んぼにも多くの希少種が生息していることを確認－

○魚では、絶滅危惧ⅠB類であるホトケドジョウ、スジシマドジョウ小型種をはじめ15種の希少種が採捕されました。（図4）

○カエルでは、ナゴヤダルマガエルとトウキョウダルマガエルの2種の希少種が採捕されました。（図4）

○特に、絶滅危惧Ⅱ類のメダカが採捕された188地点を全国メッシュ（約10km四方のメッシュ）で見ると、環境省の調査で生息が把握されていた691メッシュ以外の15メッシュで新たに生息情報が得られました。

この結果、平成13～18年度の過去6年間の田んぼの生きもの調査により、合計168メッシュで新たにメダカの生息情報が得られました。（図5）

### トピック 3

－田んぼの生態系を脅かす特定外来生物や国外外来種を多数確認－

○生態系等への被害を及ぼす特定外来生物である「オオクチバス」「ブルーギル」「カダヤシ」「ウシガエル」「オオヒキガエル」が採捕されました。（図6）（図7）

○田んぼにもっとも多く生息する在来の「ドジョウ」との競合が指摘されている「カラドジョウ」（国外外来種）の生息状況が明らかになってきました。（図8）

※詳細については、別紙を参照してください。

#### 【問い合わせ先】

農村振興局企画部地域計画官

担当者：荒川、佐藤

代 表：03-3502-8111（内線：4715、4708）

直 通：03-3592-6810

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.maff.go.jp/www/press/press.html>